

平成30年度 学校評価アンケート結果について

1 学校評価の意義

小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

[学校教育法第42条] (高等学校に準用)

2 回収率 生徒 89% 昨95.0%(-6%)

保護者 66% 昨62.0%(+4%)

※ 保護者については回収方法を改善した結果、少しですが回収率が上がりました。

3 評価結果について

(1) 肯定的評価指数 80ポイント以上の項目

保護者	1/13項目↓	7/13項目(H29)	5/13項目(H28)
生徒	1/13項目↓	3/13項目(H29)	0/13項目(H28)
教職員	7/13項目	7/10項目(H29)	7/10項目(H28)

(2) 保護者・生徒・教職員三者共通で抱えている課題意識

○基本的な生活習慣を確立させる指導 ((欠席・遅刻・早退・頭髪・服装等の指導) が十分できている。

→保護者・生徒ともに否定的評価が3割を超えている。教職員においては否定的評価の割合が過半数となっている。

○校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。

→保護者・生徒ともに否定的評価が3割を超えている。特に保護者においては、昨年度、否定的評価の割合が2割足らずだったのだが、今年度はほぼ4割と倍増している。

(3) 保護者提出分

回収率が、昨年度より4%程度アップしている。

1) 肯定的評価 (そう思う・大体そう思うと回答) が高いもの、伸びたもの

教育相談できる体制を整えている。	昨年度82% → 今年度82.2% 昨年度に引き続き、肯定的評価が高い。
いじめの早期発見に対する取組	昨年度53% → 今年度76.3% 昨年度に比べ、肯定的評価が高まった。

- ・「教育相談」については、一昨年度から評価が高まり、今年度はSSWの先生がいらっしゃったこともあってか、肯定的評価が8割を越えている。
- ・「いじめの早期発見」については、昨年度まで肯定的評価が6割に届いていなかった。アンケート調査の実施を例月実施している成果に加えて、先生方が保護者への連絡を細やかに行っているためではないか。

2) 否定的評価（あまりそう思わない・そう思わないと回答）が高いもの、増えたもの

生徒にとって有意義な学校行事を十分に行っている。	昨年度18% → 今年度32.9%
生徒および保護者に対して災害・非常時の避難方法や連絡方法を伝えるなど防災教育を十分に行っている。	昨年度24% → 今年度55.5%
<p>・学校行事，防災教育については，特に今年度大きな変更があったわけではない。そのため，否定的評価が高くなった理由については不明である。ただ，学校のHPなどを用いて，保護者にこうした行事，教育活動を行っていることをもっと発信する必要がある。</p>	

(4) 生徒提出分

回収率は、昨年度から6%下がっている。様々な事情があるにせよ、HRで学校評価アンケートをとる意義を生徒に伝えて実施してほしい。

肯定的評価が80%を越えている項目が昨年度に比べ、2項目減っている。しかし、肯定的評価の割合が大きく減ったわけではない。やはり、4の(2)であげた否定的評価の割合が高い二つの項目が課題と考えられる。

1) 肯定的評価（そう思う・大体そう思うと回答）が高いもの、伸びたもの

進路希望先決定に関わる指導体制（生徒担任・年次組織と進路指導部の連携）がしっかり機能している。	昨年度81% → 今年度79.6% 昨年度に引き続き、肯定的評価が高い。
教員やカウンセラー，ソーシャルワーカーが生徒および保護者の相談に対応できる体制を整えている。	昨年度78% → 今年度76.6% 昨年度に引き続き、肯定的評価が高い。
生徒および保護者に対して災害・非常時の避難方法や連絡方法を伝えるなど防災教育を十分に行っている。	昨年度85% → 今年度81.7% 昨年度に引き続き、肯定的評価が8割を超えている。

- ・進路に関する項目は、保護者の評価同様、肯定的評価がほぼ80%と高い評価となっている。
- ・SCおよびSSW等教育相談の体制についても、保護者の評価同様、肯定的評価が8割近い高評価となっている。
- ・防災教育については、生徒の肯定的評価は高いが、保護者の評価との差が著しい。

2) 否定的評価（あまりそう思わない・そう思わないと回答）が高いもの、増えたもの

地域連携・特色ある学校づくり	昨年度28% → 今年度30.7% 否定的評価が3割を超えた。
いじめの早期発見に対する取組	昨年度41% → 39.4%
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域連携の評価がやや低い、生徒全体で活動する機会が少なく、一部生徒の意識の高さに留まっているのかもしれない。 ・「いじめ問題」に関しては、否定的評価が少し減ったものの、保護者に比べると肯定的評価が低い。 	

(5) 教職員提出分

ここでは、否定的評価の割合が高いものは、4の(2)で示したとおり、

- 基本的な生活習慣を確立させる指導（欠席・遅刻・早退・頭髪・服装等の指導）が十分できている。
- 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。

以上の2点である。

その他には、保護者・生徒の肯定的評価は高いのだが、進路指導に体制について、教職員の否定的評価が45.5%と昨年度と比べても高くなっている。